



キムリック エーワン*

個人としての夢を実現すべく動き出したのは1993年頃。KR-200のデザインを参考に...



Table comparing specifications of 2-stroke Cymric Aone and KR-200, including engine type, displacement, power, speed, dimensions, and weight.



Messerschmitt logo



メッサーシュミット KR-200



●1950年頃の製造当時からすでにモノコック構造... ●メッサーシュミットは第二次大戦時に戦闘機を製造していた...

スペシャル版 旧車でトコとこ



「子供が走って追いかけて来て、にっこり笑うんです」



メッサーシュミット KR-200編

愛されるデザイン。メッサーシュミット KR-200

「クルマを自分で創る。漠然とした子供の頃からの夢を具体化する、きっかけとなったデザインはKR-200との出会いを語るオーナーの青木健一郎さん。元々は二輪、四輪のレーサーであり、スポーツツーリングカー、キムリック、エーワン等の設計製作者として、TVなどの各メディアや本誌にも登場し、広く知られている人です。」

●乗ついで(所有して)よかった事は?

「女性や子供さんが追いかけてくるんですよ。歳をとると友だちができてくれないんですけど、このエーワンやクルマのおかげで、たくさんの人と笑顔に出会えます。このクルマがコミニケーション手段としても活躍している。」

購入当時の1995年、すでに生産されてから約40年が経過しているのに加え、イギリス人の前オーナーがメカに対して無頓着な人だたうで、良い所をさがしても見つからない程に全体がくたびれており、整備のことを考えると頭を抱え込んでしまつたらしい。「整備を少しずつ進めていく内に、良い物を造るために決して妥協はしな」という、ドイツ人の物作りへの姿勢を直に感じる事ができ、それらが自分のクルマ造りにも影響しましたね。シンプルで優れた設計、素材の強度など本当に驚かされた。●長距離も走りますか?

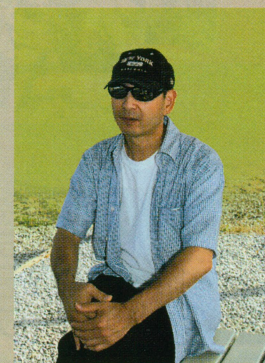
「徳島や愛媛の温泉に行つたりしますし、日帰り200キロほどの走行はさらで、高速も利用することもありますが、快適ですよ。数年前に屋久島へ行った時は片道約50キロ近い距離を食事と給油以外はノンストップで平均50、60キロのスピードで走破したこともあります。年間6000キロは走りますよ。高速道で山越える場合も不便を感じたことはないです。『フリーホイール』といえ、前が二輪なのでカーブでも安定しています。●輪だという意識はないですね」

●出先のトラブルは?

「徳島で電気の接点が取れてしまったことがありま。現在の量販車はC D I 等で無接点ですが、2000ccが生産された当時は機械式のポンプであり、その接点がボロボロと取れた(笑)。私も、数十年クルマに携わってきたが、接点が荒れることはあっても取れたのは初めての経験でした。でもこの車にはバクキアが無い代わりに、エンジンを逆回転させて後進するためのバック用ポイントがあり、それが前進用と互換性があったので、取り付け位置を変えて何とかなりました。マイナートラブルはありますが、構造がシンプルなので、現場で対策して自力で帰って来ますよ。今ではトラブルも楽しんでます。所有して8年の間に、ほぼトラブル退治は終わつたところで、逆にそれが寂しいと。」

●手放しますか?

「ずいぶん苦労もありましたが、その分愛着が増し、楽しい思い出もたくさんありましたので可能限り長く乗り続けたいと思っています。まだまだ先のことになりそうですね。」



青木 健一郎

高校卒業後、バイクレースを始め、プリズトン専属ライダーとして2輪のモトクロス日本GP500ccクラスで優勝など活躍。86年の4輪転向後に本格的なレース活動に入り小型フォーミュラカーであるFL-Bクラスでは、西日本では「敵なし」といわれるほどの実績を残す。現在は自動車整備をする傍ら、車体の設計やレーシングコンサルタントなど多忙な毎日を送っている。